

応用ソフトウェア（Google スライド・Map）とリモート学習（Google Meet）の活用

<中学2年生：応用ソフトウェアの活用>

- 【ねらい】・新しいアプリケーションソフトの使い方や技能を学ぶ
- ・“すぐにでも・どの教科でも・誰でも”使えるICTをめざす

1 「Google スライド（プレゼンテーションソフト）」の活用

- (1) 生徒それぞれに都道府県を1つ選択させる。ご当地グルメと観光地など、担当の都道府県の魅力をインターネットで検索してまとめさせる。
- (2) モデルコースを作るのに、「Google Map」でルートを検索させる。



図1：スライド

経路や距離、目安の時間などを調べさせる。

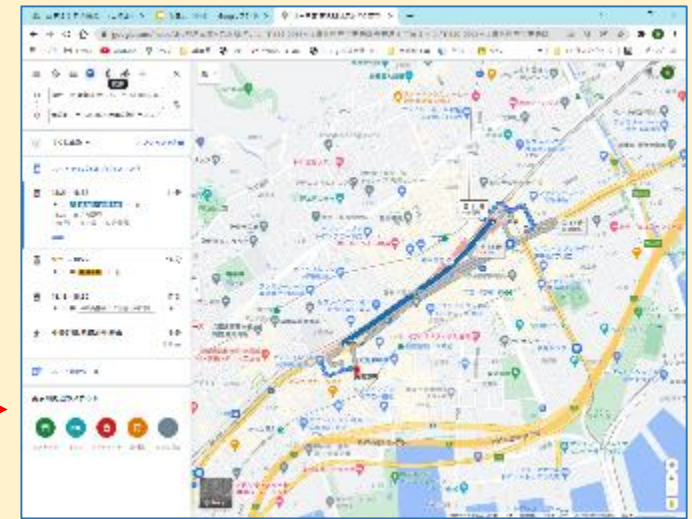


図2：ルート検索

ICT活用のポイント

- ・スライドでの文字の配置やフォントの設定など、見てもらう側の気持ちを考えて制作させる。(図1参照)
- ・Mapのルートの検索を活用することで、地図の見方や移動方法などについて考えさせる。(図2参照)



応用ソフトウェア（Google スライド・Map）とリモート学習（Google Meet）の活用

2 Google Meet（リモート）の活用

- (1) 「Google スライド」を「Google Meet」の画像共有の機能を用いて、離れた場所からスライドを発表させる。
- (2) そのスライドを視聴したあと、「Google Classroom」から教師が投稿した「Google Forms」に評価アンケートを打ち込ませ投稿させる。
- (3) 「Google Classroom」から投稿されたデータを確認して、今後のスライドの制作に活用する。
- (4) 11月に「Google スライド・Meet」を用いた〈宍粟市ICT教育研究授業〉を行いました。



図3：手順確認画像



図4：アンケート回答表示



動画再生時間

ICT活用のポイント

- ・発表やアンケートの手順を投稿しておく。分からないときには、いつでも自分で確認できるようにしておく。（図3参照）
- ・Formsで作成したアンケートを用意しておくことで、クラスのみならずの意見が反映されるので、手ごたえを感じることができる。（図4参照）

応用ソフトウェア（Google スライド・Map）とリモート学習（Google Meet）の活用

3 考察

- ①スマートフォンを多用している生徒たちでも、新しいアプリケーションを使用することによって、とても意欲的に調べ学習に取り組む姿勢が見られた。
- ②普段大きい声を出しにくい生徒や対面での発表が苦手な生徒でも、自分の顔が直接見られることないので話しやすくなったと思われる。また、小さな声でもスピーカを通じて相手に聞こえるように発表ができたのでよかった。
- ③「Forms」によるアンケート記入をさせることにより、ほぼリアルタイムでクラスメイトからの評価やアドバイスが見られるため、効率化が格段にアップした。
- ④生徒・教師ともしっかりと準備をしておく必要がある。（特に通信状況など）
- ⑤一斉に調べ学習をしたときの通信速度が著しく低下する。そのため、学習時間にタイムラグができる。その時に、どのように対処すればよいかを準備しておく必要がある。
- ⑥「スライド」を制作する時間よりも、全ての生徒が発表をするためには膨大な時間を要する。



各教科等の指導におけるICT活用の基本的な考え方

新学習指導要領に基づき、**資質・能力の三つの柱をバランスよく育成**するため、子供や学校等の実態に応じ、各教科等の特質や学習過程を踏まえて、教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、**主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善につなげる**ことが重要。

【留意点】

- 資質・能力の育成により効果的な場合に、ICTを活用する。
- 限られた学習時間を効率的に運用する観点からも、ICTを活用する。